

図書館だより



7月号

2022年7月6日
安田小学校図書室

夏休みの貸し出しについて

新校舎への移転の日が近づいてきました。たくさんの子供たちが本を楽しんだ図書室ともいよいよお別れです。図書室は引っ越し準備のため、7月19日(火)から閉館します。そのため今年度は夏休みの本を貸し出すことができません。申し訳ありませんが、「読書の記録」などの宿題にはご家庭の本や公共図書館の本などをご利用ください。



引っ越しに備えて、図書委員会で本の整理とふき掃除を行いました。

もうすぐ夏休みが始まります。たくさんの本に触れて、心も大きく成長できるお休みであってほしいものです。この欄で学年別の読書のポイントやおすすめの本を紹介して、少しでも夏の読書のお手伝いができればと思います。

2年生 たくさん本を自分で読めるようになりますが、読み聞かせも大好きな時期です。たっぷりお話を聞かせてあげてください。教科書教材で、音読集会でも暗唱した『なまえをみてちょうだい』の作者は『ちいちゃんのかげおくり』で知られるあまんきみこさんです。低学年でも読みやすい作品を多く書かれているのでおすすめです。

3年生 学校で世界の民話をたくさん読みました。民話というと日本やヨーロッパのものに目が向きがちですが、千夜一夜物語に代表される中東の昔話や、アフリカ、アジアの昔話も雰囲気が変わって面白いものです。絵本もたくさんありますし、こくま社の『子どもに語る』昔話のシリーズなども親子で楽しんで読めるとおもいます。

4年生 多分野の本が読めるようになり、読書の楽しみを感じる子どもが増えてくる一方で、読まない人との差が出やすい学年でもあります。家族みんなで本を読む「読書タイム」を設けるのはいかがでしょうか。読書のきっかけになるとおもいます。動物の本、戦争と平和に関する本、スポーツの本など、興味のある分野から本を見つけていくと、苦手意識を持ちにくいかもしれません。本を探するとき『キラキラ読書クラブ 改訂新版 子どもの本702冊ガイド』などのブックリストにも頼ってみてください。

5・6年生 好きな作者が見つかり始めるころです。話題になった本が気になる時期でもありますが、斉藤洋や星新一、角野栄子、上橋菜穂子などの長く親しまれている作家や『シートン動物記』、『ドリトル先生』などの定番シリーズの面白さを知っておくことで、本を評価するものさしを自分の中に作ることができます。国語教科書で紹介されている本もほとんどが定番の作品です。

※1年生は夏休み前に配付する「夏休みの親子読書について」でおすすめの本を紹介しています。

読書感想文 課題図書

第68回青少年読書感想文全国コンクール課題図書の中から、何点か紹介します。本選びの参考になさってください。

低学年

『おすしやさんにいらっしやい！
生きものが食べものになるまで』

おかだだいすけ/文 岩崎書店



キンメダイ、アナゴ、イカが握りずしになるまでを追った写真絵本です。それぞれ8ページもある「さばく」場面では、魚の姿が細部までわかるように様々な写真が撮ってあります。読後に、本物の魚を観察してみたら楽しいのではないのでしょうか。

『ばあばにえがおをとどけてあげる』

コーリン・アーヴェリス/文
まつかわまゆみ/訳 評論社



大好きなばあばを笑わせようと、ファーンは公園に「よろこび」をさがしに出かけます。でも、よろこびをつかまえることはできません。鮮やかな挿絵が内容にぴったり合っています。自分のよろこびってなんだろうと考えたくなる絵本です。

中学年

『みんなのためいき図鑑』

村上しいこ/作 童心社



ばくらの班が図鑑づくりの授業でテーマにしたのは「みんなのためいき」。でも、班の雰囲気は最悪で、問題は山積み。嫌な時だけでなく、うれしい時、ほっとした時にも出るため息を題材に、感情の複雑さを描いた小説です。人は様々な事情と感情をかかえて生活しているということを自然に理解することができます。

『111本の木』

リナ・シン/文
こだまともこ/訳 光村教育図書

インドのピプラントリ村では、女の子が誕生すると111本の木を植えて祝います。それには村長スングルさんの二つの願いが込められています。1つは大理石の採掘によって破壊された自然が元の姿に戻るように。もう一つは、祝福されない女の子の誕生が、男の子の誕生と同じように喜ばれるように。SDGsにも通じるエコフェミニズムの活動がわかる、ノンフィクション絵本。

高学年

『捨てないパン屋の挑戦
しあわせのレシピ』

井出留美/著 あかね書房

広島出身のパン職人を取材したノンフィクション。環境問題に興味を持っていた田村さんが目指したのは、ふわふわのお菓子パンではなく、フランスで作られるような天然酵母とまき窯を使ったほんもののパン。ところが、お客さんを喜ばせるためにたくさんパンを作り、それを次々に捨てる毎日に、田村さんの心は悲鳴を上げ始める。

『りんごの木を植えて』

大谷美和子/作 ポプラ社



いつでも私の味方で、いろいろなことを教えてくれたおじいちゃん。でも、がんが再発したときおじいちゃんが選んだのは、積極的な治療をせず、家で自分らしく暮らすことだった。魅力的な人物として描かれる祖父の死をテーマに、その生き方が家族に深くしみこむ様子が丁寧に描写されている。